

## 鈴木<sup>ぶんたい</sup>文臺

寛政8年（1796）粟生津の鈴木見義の二男に生まれた私塾長善館の創立者。

幼少から英俊で学を好み、14歳の時に詩書を後藤託玩に学ぶ。18歳の時、来越した太田芝山の牧ヶ花の塾に学び、芝山の講義を助けた。良寛が来ていて「斯の児、異日必ず大器を成すべし」と歎称したという。

19歳で江戸へ出て儒者亀田鵬斎を尋ねるも独学での門下に入り21歳の時、病気で帰郷する。

その後、寺泊や牧ヶ花で塾を開き教える。天保4年（1833）の38歳の時、粟生津に長善館塾を創建した。

明治22年の官報で刈羽の藍沢南城による三余塾と共に北越私学の双壁と賞された。

長善館からは詳解漢和大辞典の小柳司気太、新潟竹山病院長の竹山<sup>たむろ</sup>屯、画家の片桐<sup>そんどう</sup>遜堂、政治家の大竹貫一、勤王家の長谷川鉄之進など多数の逸材を輩出する。文臺は明治3年、75歳で没した。北越を代表する儒学者である。

